

第2次十日町市立小・中学校の学区適正化に関する方針 令和元年度説明会の概要（8月実施分）

【十日町地域】

	日時、会場等		主な意見等
中 条 飛 渡 地 区	日時	8月21日（水） 19：00～21：10	① パブリックコメントの要約版を読んだが、これが要約と言えるのか。 [答]パブリックコメントは、第2次方針の方針案について意見を募集した。意見には、飛渡第一小学校の良いところや存続を希望すること、地域との関係も充実しているというような学校への思いが多かったと受け止めている。飛渡第一小の存続を希望するという共通の意見であったため、要旨を集約して市の考え方をお答えしたものである。 ② 一般公開されている結果を読んで、こういう意見があったと全く想像できない。要約というが、気持ちが伝わらず何のために意見を出したのか、もう少し受け止めてほしかったと思う。 [答]皆さんが、色々な思いを持って飛渡第一小のことを考えて、ひとつひとつの意見を挙げたのに、簡単な形にされてしまい残念だということだと思う。私どもの配慮が十分でなかったと反省をさせていただく。 ③ これから反対も賛成もいろいろな意見が必要だと思う。1箇所に要約しましたとすると意見が出ず、考えが解らず話し合いにならないと思う。 [答]ご意見は承る。 ④ 方針案の時点で、教育委員会では全員賛成で方針案ができたのではないと聞いている。 [答]教育委員会の中でも非常に微妙な問題であるとのことで、2人の方が反対されて賛成が3人で、方針案を方針に決定した。市民全体の色々な思いが、教育委員会の中で議決に反映されたもので、教育委員会として正常に機能したと思っている。 ⑤ 反対意見があったのであれば、その意見を十二分に受け入れる形にしてほしい。 [答]丁寧な説明を心がけたいと思う。教育委員会が独断的に統合を進めることはない。地域の皆さんとしっかり話し合い、今後のことを考えていく。 ⑥ 多くの資料をすぐに理解できない中で、意見を出すのは難しいと思う。パブリックコメントを朗読してもらえないか。 [答]朗読することはやぶさかではないが、説明会を今回の1回で済ませるつもりはない。必要があれば説明に伺う。資料をご一読いただいた後で、もう1度説明会の中で意見交換を行っても良いと思う。 ⑦ 今回は初めの説明ということで、今後の意見交換をどのような段取りで行うのかを相談の上で取り組まれると思うが、その段階で皆さんが読んできて意見を交換すれば良いと思う。一番初めのスタートラインとして資料を配られただけで、全部読むにはかなり時間が必要だと思う。 [答]質問やご意見が無ければ、読んでもよろしいが、如何か。
	会場	飛渡公民館	
	対象	・飛渡地区振興会 ・飛一小後援会 ・学校運営協議会 ・保護者 （未就学児含む）	
	人数	35人	

（中条飛渡地区）		⑧ 飛渡第一小は、大勢の方々から支えられている。統合となると学校がなくなり過疎化がますます進むのではないか。 [答]教育委員会としては、子どもたちのより望ましい教育環境を整備し、可能性を広げるために統合を提案している。地域の活性化については、市全体の問題としてどうするかという対応をしたい。 ⑨ 地域の子どもたちと地域との接点が少なくなって、今までよりも無関心になるようなことが心配される。 [答]飛渡第一小の子どもたちを地域が支える活動は濃密だと思っている。子どもたちとの接点をどうやって作るかについては、例えば松之山の松里小学校では、閉校になっても地区の運動会を継続して行っている。創意工夫により、子どもたちとの接点を作っている地区もある。 ⑩ 方針に対する教育委員会での決定について、先ほどは反対が2の賛成が3であったと聞いたが、報道では、賛成反対が2対2で最後に教育長の1票で決定したとあったがどうなのか。 [答]その通りである。 ⑪ 委員の中で半分に分かれたのであれば、もう一度考え直すという方向にはならなかったのか。 [答]検討するにあたり、学区適正化検討委員会を組織し、市民の皆様やPTA代表を含む保護者の皆様から、昨年の7月から今年の3月まで議論していただいた結果を尊重するという事で私は賛成した。 ⑫ 教育と地域振興は切り離せないものののに、別々に話をする事自体がおかしいと思う。教育委員会と地域振興の所管課との話し合いはないのか。 [答]教育委員会はひとつの執行機関であり、市長もひとつの執行機関である。教育委員会としては、市長部局の他の部署に関わりなく決定できることから、この方針を決定した。 ⑬ 市長が、選ばれて住み継がれる十日町市を作ろうと言われており、そのためには地域活性化は必要なことであり、地域が活性化するには教育が大事な要素である。飛渡第一小はこれから児童数も増える予測になっており、市外・県外から人が集まっている地域でもありこれから結婚する方もいる。教育委員会は別とは言え、市全体のことを考えなくて良いのか。別々の説明で良いのか疑問に思う。 [答]市長の選ばれて住み継がれる十日町市を実現しようという枠組みの中に、教育委員会も入っていると思っている。子どもたちの学ぶ環境をどうするかというのも大事な要素であり、少しでも子どもたちの可能性を大事にしないといけない。地域振興を頭に置きながら、子どもたちの学ぶ環境をどうするかという苦渋の選択であり、教育委員会の決定で3対2に分かれたのもそれぞれ苦渋の決断であったと感じている。 ⑭ パブコメには、良い取り組みはできるだけ引継ぎとあるが、小規模校にしかできないものがあると思う。 [答] 松代小学校に孟地小学校と奴奈川小学校が統合した際に、孟地小に伊沢和紙の文化があり自分で作った和紙に文字を入れ卒業証書を作っていた。良い伝統は引き継いで欲しいと思っていたが、地域の皆さんは配慮して現在も松代小学校は和紙を使った卒業証書を作っている。 ⑮ 中条小と飛渡第一小では、取り組んでいることが違うのに引き継げるのか。 [答]統合にあたっての学校間の話し合い、また学校運営協議会や保護者との話し合いの中で、協議することになる。
-----------------	--	--

(中条飛渡地区)	①⑥ 統合することでより良い教育環境にしたいという考え方であれば、現在の小規模校はより良い環境とは言えないと思うが、そこで学んでいる子どもたちや教員はどう思っているのか、子どもたちの声を聞いてほしい。 [答]子どもたちは、与えられた環境の中で学んでおり、他の環境を知らないため無理があるのではないかと。教員に聞いても話し難いと思う。複式学級というのは、教育活動をする中で、いかに教育のレベルを維持するかという教員の苦労が大きいところがある。 ①⑦ 他の学校に交流に行き、井の中の蛙ではないと思うが、子どもたちの声を聞く考えはないということか。 [答]飛渡第一小と中条小が交流活動をしているが、それが楽しかったということは聞いている。倉俣小が田沢小に統合し、子どもたちは友達が増えて良かったという声を学校から聞いている。 ①⑧ 方針全体を見ると、人数が減ってきたから学校を減らすということだと考えてしまう。今後人口が減り、学校が中心部に集まることを危惧している。そうすると通学が負担となるため、周辺から中心に人を集めようとしているとしか考えられない。 [答]徒歩での通学距離としては、小学生は4km、中学生は6km、スクールバスを利用して約1時間という基準がある。まつのやま学園については、再編した場合に通学時間が長くなることから、今回の方針では対象外とした。南中学校に松代中学校と吉田中学校を統合する計画だが、松代地域から1時間近く掛かることを心配されている。9・10ページに県内の小学校と中学校の1校平均あたりの子どもの数がある。中学校では十日町市が125人であり、20市平均が241人、佐渡市は78人である。佐渡市の地形では通学に時間が掛かり過ぎるため、一部の中学校は複式学級になっている。出来れば中学校は、大人数の中で教育活動を行うことが望ましいと思うが、県内にはそういう事例がある。 ①⑨ 人口が増えるなら、今までに閉校した小学校の地域に、小学校を設置することになるのか。 [答]飛渡第一小学校を含めてどの地域においても、複式学級を解消する児童数になれば考えられる。また、全国には閉校ではなく休校にして建物を維持しておく自治体もある。松之山地域は、市町村合併前には山村留学という制度を作り、都会の子どもを松之山地域に連れてきて学ばせたことがある。地域自治組織の理事の中に山村留学に関わっていた方が居て、是非とも検討したいと伺っている。 ②⑩ 複式学級校から統合予定校への学区外就学許可条件の検討が必要とあるが、具体的にどういうことか。 [答]倉俣小学校が田沢小学校に統合する時に、統合が決定した翌年に入学する子どもについて、友人関係の変化や学校指定用品の購入などを考慮して、統合1年前に田沢小学校に入学を許可した事例がある。今回、貝野小学校が統合するので、来年度貝野小学校に入学する子どもについても、田沢小学校に入学して良いという方針で臨んでいる。 ②⑪ 学区再編の大きな柱として複式学級の解消があり、本校が当てはまっていると思うが、ひとつの指針としては良いと思う。それを無理やり条件に当てはめて、そのとおり画一化して再編するという考えではなく、原則複式学級の解消を目的として方針を立てたという表現で良いと思う。 [答]この方針は決定したものである。皆さんの思いの中で、飛渡第一小学校を存続させたいという意見が強
-----------------	--

（中条飛渡地区）	ければ、教育委員会としては進められないということをご理解いただきたい。 ② 方針の12ページに、十日町市・津南町以外からの教員が51%を占めていると、教育長が以前どこかでも市外出身の先生の数が多いのは問題だと言っていたが、何が問題なのか。 [答] 地元の先生が少ないと他所からの人材を受け入れて確保しなくてはならない。県教育委員会の意向で配置できるのは、採用されてから1校目2校目合計6年間である。十日町市、津南町地域については、地元出身の教員が少なく、他所からの教員の力で学校教育が成り立っているという状況がある。1校目2校目というのは、若くてはつらつとして元気があるという良さがあるかも知れないが、授業や生徒指導にはある程度経験のある教員が多い方がよい。今現在の十日町市では、中堅職員の層が薄く若手職員の層が厚いという状況となっており、ひとつの悩みとなっている。 ③ 3校目以降はどういうことになるのか。 [答] 3校目以降は、教員本人の意思で自分の希望する地域又はその近辺で勤務するように人事が決まる。 ④ 十日町市、津南町以外の過疎地と言われる市町村の共通の悩みと言えるのか。 [答] 過疎地というよりも、魚沼地域全体で同じ悩みがある。 ⑤ そういうものに対する県の取組とか啓発をしていることがあるのか。 [答] そのために10年ほど前から教員採用で、魚沼枠という方法をとっている。例えば、十日町市から通勤できる範囲の学校で勤務するというものである。しかし、魚沼枠の採用基準が低いということではなく県全体同じ基準である。魚沼枠で人数が非常に多くなった、ということにはなっていない。同様に佐渡市についても佐渡枠という考え方がある。 ⑥ 中条小は「おおなっ子」という名前で活動している。じょうもん市が中条地区で行われ、じょうもん市の日程と飛渡第一小学校と地域の合同運動会の日程が重なり、中学生は中条中学校なので、子どもたちがじょうもん市に参加するため、寂しい運動会が続いている。例えば、飛渡第一小の子どもが中条小に行ったとして、じょうもん市に参加すれば運動会は成り立たない。小学校は、飛渡地域のことを学び、中条中で縄文などを学び、高校では広く十日町市や津南町を学ぶように、段階を踏んで地域を愛する気持ちを養うことになると思う。 [答] それもひとつの考え方だと思う。日程については、話し合いの中でお互いに尊重しあって、うまく重ならないようにできれば最良だと思う。 ⑦ Q&Aの10で、保護者や地域の皆様と協議し合意をいただいた上での再編となりますとあるが、保護者と地域また未就学児の保護者では、学校に対する思いが違う。合意というのは多数決で決めるのか。学校から離れた人からすれば、どちらでも良いと言う人もいると思う。学校を残してほしいと強く思っている人もいる。投票数の違いで表せない部分があると思う。 [答] ひとり1票とするのか、各地域がどう結論を導いてきたのかは分からないが、話し合いの中で色々な方法を執ってきたようだ。アンケートをとって状況を見たというところもある。地域に応じて色々な経過があると思う。
-----------------	---

（中条飛渡地区）			㊸ 多数決となると1票差でも地域の合意となるのか。何割とか合意のラインをどう考えるのか。 [答]それは地域の皆さんの考え方だと思う。どういう状況を合意とするかは、一概に言えないものと思う。 ㊹ 学校統合の問題で、地域が2つに割れるような心配が出てくるのではないか。 [答]今まで統合したところについては、地域が割れたということを聞いていない。皆さんが民主的な話し合いの中で、解決してきたものと思う。 ㊺ 学区適正化方針であるが、飛渡第一小学校が適正ではないと私は思わない。この方針では複式学級が適正ではないと言うが、実際子どもが入学して学んでいるのを見ているとギャップがある。この資料を見ると、飛渡第一小に通っていることが、子どもたちにとってデメリットがあると言われてるように感じる。初めて小学校に入学する未就学児の保護者に対して、すごくイメージが悪い。適正ではない小学校に学区だから行かなければならないのかと思うのではないか。私は、実際に通わせてみて、学力が伸びないことも無いし、羽ばたけないことも無い。1年生から6年生と一緒に体育をして、体力も付くしメリットがあるのに、適正ではないと受け止めてしまうことが、地域を2分する材料になると思う。 [答]飛渡第一小学校の教育活動については、校長をはじめ教員の皆さんが頑張っていると思う。そこに地域の飛渡濃実会さんや振興会の皆さんが支えてくださり、今の教育活動ができることを本当に有り難く思っている。小さな学校では、良い状態と不安定な時期の波があり、飛渡第一小の関係者から相談されたことも何年か前にはあった。教職員が充実している大きな学校ではそのような話はないが、小さな学校ほど体制について不安定な部分が出ることもあると感じる。今は良い状態で保護者の皆さんの満足度も高いと理解している。複式学級では教員が充実していないため、統合を考えていただきたいという方針である。地域が2分されてしまうのではということであるが、皆さんが色々な意見交換をして、お互いが納得できる形で結論を見出していれば有り難い。 ㊻ 飛渡地区が好きになり移住された女性が、結婚して子どもは小学生になっている。ずっと住んでいる我々とは思いが違うので、その声を良く聞いてほしい。 [答]移住されたということで本当に有り難く思う。 ㊼ 飛渡第一小は、学力が低下することも体力が低下することも無いと思う。コミュニケーション能力が培われないことも無く、皆の前で発言するとか非常に伸びている部分を実感しているので、イメージで複式だから先生が大変、子どもが少なくて友達ができないから悪いという形を見せるのではなく、実際の子どもの学力や体力、コミュニケーション能力が悪いのかを検討してほしい。それを公表して地域で考える材料にしてほしい。 [答]小規模の学校のメリット・デメリットという部分では、方針にも一般論として書いてあるが、この地域の皆さんの支えが大きくて、今ほどの言われたような状況になっていると思う。実際に子どもたちの活動を年に2、3回見にくることがあり、伸び伸びとしており色々な話も聞けてうれしく思っている。 ㊽ 学区適正化の方針を見ると、教育面を前面に出して学力や子どもを良い方向へと言うが、一般論が飛渡第一小に当てはまらないと思う。当てはまる学校と当てはまらない学校があると思うので、もう一度考えてほ
---	--	--	---

（中条飛渡地区）			しい。市長が、選ばれて住み継がれる十日町市を目指すと聞いた。各地域に保育園がないため、歩いて自宅から保育園に通う人は少ない。小学校も中心部に集めて歩くこともなくなると体力面が心配である。地域に関わる回数も減り、地域を愛するとか知るといふ気持ちが薄れて、どうやって地域を知り好きになることができるのか。 [答]ふるさと教育というのは、学校教育の中でも大事な部分と考えて、ふるさと十日町市を愛し自立して社会で生きる子どもというものを学校教育のめあてにしている。ふるさと感については、家庭の中で父母や祖父母が地域に誇りを持つことも大事だと思う。学校教育の時間よりも家庭で過ごす時間が大きいので、地域の皆さん、また家庭の皆さんからも考えていただければ有り難い。もし統合して学区が広がった場合は、中条の中心地だけでなく、飛渡地区を含めたふるさと教育を学校教育で取り組みたいと思う。 ③④ 子どもたちは昔と違い、父母の仕事の都合や家庭の事情で学童保育に通っていて、大人と一緒に帰宅する子が多いと思う。昔ほど家庭での教育ができないと思う。それを手助けしているのが学校で、地域にあるから安心して通える。この方針が合う学校と合わない学校があると思うので、もう一度考えてほしい。 [答]この方針については、決定事項である。ただ、学校を残したいという地域の声が強ければ学校は残るので、これからも飛渡第一小の教育活動にご支援賜りたい。 ③⑤ 方針は決定だと思うが、地域の話し合いが進み、統合したくないとなれば変更もあるのか。 [答]方針は決定事項であり、これを基に説明している。この通りに進めるのかという質問もいただくが、より良いアイデアがあればそれについて検討させていただく。 ③⑥ 飛渡第一小は、統合したくないという意見でまとまった場合には、統合はしなくても良いという考えがあるということか。 [答]地域の総意として、もっと頑張ろうということであれば、教育委員会としてはそれを認めた中で、飛渡第一小の教育活動を支えていかなければならない。 ③⑦ 中条中学校に下条中学校と川西中学校が統合という案で、説明があると思うが、これから中学校に進学する子どもの保護者も対象となるのか。また統合先の中条中学校区の保護者も対象となるのか。現在中学生の保護者と地域に限定の説明会で終わるのか。 [答]保護者というのは現在のPTAに限定しておらず、これから中学校に入る小学生の保護者、未就学児の保護者も当然入る。 ③⑧ 飛渡地区には、飛渡第一小と飛渡第二小があり、飛渡第二小は中条小に統合した。先ほどから地域のことも学べるようにすると言うが、現在中条小で飛渡第二地域を学ぶような活動をしているのか。 [答]具体的な学校での活動についての質問を想定しておらず、回答を用意していないため確認したい。 ③⑨ 飛渡第一小が中条小に統合しても、ほとんどの学年で1学級になり2学級にはならない。市内の1学年1学級という学校の話を見ると、学級崩壊の状態で困っているとか、いじめや不登校があるとのことから、今の飛渡第一小の状況と比べて不安を感じている。都会の方では、もっと1学級の人数を減らして、30人で2学級にするなどの取り組みをしている自治体もあるが、そういう考えはないか。
---	--	--	---

（中条飛渡地区）			[答] 1・2年生については32人学級で、3年生以上は40人学級である。そういった中でも教員にゆとりがあれば、算数や国語では習熟度に応じた少人数学習を行っている。 ⑩ それは学習に入るのもであって、学級は変わらないということではないのか。 [答] その通りであるが、特別に何かの課題があり加配という教員が1人追加されれば、40人ではなく20人ずつに分けて学級編制するという学校もある。 ⑪ この方針を見ると、統合後に発生するかも知れないデメリットには触れられていないと感じて、統合前の少人数でのメリットを統合後も引き継げるかも知れませんかと言うが、今までに無かったリスクなどに不安を感じる。そういうところも考えてほしい。 [答] 色々な不安があると思うので、もし統合した際には、教育委員会も統合先の学校も、そういう不安を軽減するよう努力しなければならないと考えている。 ⑫ 各学校の後援会などの地域の支援があり、学校が成り立っていると思うが、統合した学校の後援会の在り方がどうなっているのか。学校によって後援会や地域の協力の仕方があると思うが、どう考えているか。 [答] 統合した場合は、後援会は一本化していただきたいと思う。後援会ばかりではなく、PTA組織も話し合っってどういう形にするかが大事であると思う。学校自体も教育目標をどう定めていくかを新しい学校の中で検討して活動を展開していくことになる。
吉田地区	日時	8月6日（火） 18：30～19：30	① 7月3日十日町地域自治組織への説明会での反応はどうだったのか。 [答] この方針に対して憤りを感じるという発言があった。中学校の再編では、東小学校が全員十日町中学校へ進学させることになり、大井田地域の皆さんにとって中条中学校を支えてきた歴史がある中で、このような提案をされても困るという発言があった。また、これからの説明会についての段取り等の質問があった。 これまで9回の説明会をしている中では、地域に学校がなくなることは非常に切ない。地域の拠り所になってきたものが、子どもたちが少なくなってきたことにより閉校されるということだが何とかならないのか。松代中学校の保護者の方からは、松代中学校から南中学校へ通うことになると、30分近く通学時間が余計に掛かってしまい、全体では1時間弱の通学時間ということで、子どもたちに負担となるのではないかと、というご心配の声をいただいた。スクールバスの運行については、より時間が短くなる方法について、これから松代支所とも検討したいと回答した。地域に反対があれば進められないと説明している。条例により、地域自治組織に公の施設の設置や廃止について意見を求めなければならない。それがもし反対であれば、思うようには進められないことになる。地域自治組織の判断には、地域の皆さんの考えが大きい背景になると思っている。質問の中には、この方針を絶対にこのとおりに進めるのかというものもあったが、より良いアイデアがあれば検討すると答えている。 ② 保護者の意見の中に、吉田小学校と鑑島小学校の複式学級を解消したいという思いはある。吉田小と鑑島小がひとつになるということに対する障害は、若手にはないと思うが懸念されることがある。吉田小または鑑島小の校舎を使って統合した場合に、吉田中学校に小中一貫校とならないことで、知らないうちに中学校
	会場	吉田ふれあいスポーツセンター	
	対象	吉田小・鑑島小合同 ・学校運営協議会 ・保護者 （3～5才児含む）	
	人数	30人	

（吉田地区）	が統合されてしまうという不安がある。地域には小学校がひとつだけ残ることに、賛成しにくい思いがある。新聞を見ると、川西側の松代、橘、吉田に反対の意見が挙がっていて、市の中心部に全ての環境が持っていられるという不安がある。子育て世代だけでなく、将来子どもが戻ってきたときに、教育環境が川の向こう側の市の中心部に移ってしまうことが予想される。そうならないように、松代と川西を含めて、クロスカントリーコースや素晴らしい景観など特色がある吉田の地域に小中一貫校を作り、将来的にはまつのやま学園の受け皿にもなり得るという長期的な考えで学校を残してほしいと思う。高規格道路のインターがほしいと要望会で意見が出ていたが、市として特色ある学校として残し、生活環境と働く環境や人の流れを市の中心部だけに持っていけないで、反対意見が出ている地域の気持ちも汲んで、学校再編を慎重に進めてほしい。 [答]松代地域、橘地区から反対の要望をいただいたが、本方針の説明をする前に新聞報道等を見て振興会等の皆さんが動かれたということである。ひざを突き合わせながら説明させていただくことで、気持ちの変化をいただけるのではないかと考えている。また、吉田中学校が知らないうちに無くなることはない。地域の皆さんが残したいという気持ちが強ければ、教育委員会として動けないと思っている。しかし、子どもの数が令和13年度には、吉田中学校は30人に減ってしまう。クロカンや駅伝にがんばってきた学校であるが、学び合い鍛えあう環境が十分できるのか心配である。どうしたら子どもたちにはつらつとした中学校生活を送らせることが出来るのかを考えていただければと思う。 ③ 人が減るのは数字を見れば分かるが、市として人が増えるような政策ができないか。例えば、スキーを特色として松代を含めて環境整備を考える。中心部だけではなく人が増えるようなアイデアを出して、数字が上向きになるような政策を期待している。減っていくだけの数字では地域住民としては寂しい。この学区の再編は良いところを潰しあってしまうのではないか、そんなに上手くいかないと思う。吉田地区は後援会がバックアップしている。保護者の関わりも今のようにできなくなるのではないか。大きな学校の良いところもあるが、統合したら保護者が関わらなくなり、不登校やいじめがあるなど、良いところばかりではなく、個性が埋没してしまうということもある。人数だけの括りよりも特徴を持たせるような良い案を提案してほしい。 [答]地域振興は大事であり、それがベースになり地域の人口も増えていく要素も生まれると思う。市では地域おこし協力隊の人達が市外から来て7割程度が定着している。より魅力ある十日町市にしながら、外部人材を受入れ、移住を増やすという考え方も持っている。また、特色ある教育活動は大切だと思うが、学校と地域の皆さんが話し合い、地域の皆さんのご支援をいただく中で特色ある学校づくりが展開されてきたと思う。吉田地区が、クロカンや駅伝を小学校のうちから子どもたちを鍛え、それが中学校で花開いていると思う。素晴らしい伝統については、これからも伸ばして生きたいと思っている。子どもの数、生徒を増やすということでは、松之山地域で合併前に山村留学という制度で、都会の子どもを松之山に住まわせて松之山の学校に通わせたという経緯がある。まつのやま学園も子どもたちが少なくなってきたため、存続が難しくなるという話をしたら、地域の皆さんがまた山村留学について改めて検討したいという話をいただいている。それについては、地域の力という要素が非常に強いと思っており、支援させていただくが教育委員会が
---------------	---

(吉田地区)			先頭に立つてできないと思う。松之山地域には、東京松之山会という組織があり、そういう人材を活用しながら自然豊かなところで学ばせてはどうかと首都圏の教育委員会に働きかける検討が進んでいるのではないかと期待している。 ④ 松之山の山村留学というのは、学区に関係なく松之山に通うことができるということか。 [答] まつのやま学園については、特色ある教育活動として小中一貫校を平成 29 年度から始めた。英語教育とふるさと学習に特色を持たせており、教育委員会としては支援する立場である。市内どこからでも保護者の力で通わせるのであれば通って良いという方針をとっている。山村留学については、都会の子どもを受け入れるということでやってきた経過がある。 ⑤ 吉田中学校が、スキーが強い学校として特色を出して地域ががんばれば、学区に関係なく通学して良いということになるのか。 [答] この度の全国中学校スキー大会では、吉田地区に皆さんのご協力をいただき大成功に終えたところである。入賞した子どもたちは、南中、川西中、松代中の子どもたちであり、吉田中だけが出場したということではないため、それには検討が必要かと思う。 ⑥ 地域の中で検討して学校作りを提案し、市と協議したうえで、学区外からも募集する制度を作ることは可能か。 [答] 吉田地区の皆さんが市外から子どもを連れてくるということであれば、市教育委員会と市外の教育委員会の話し合いの中で許可するという運びになる。
	水沢地区	日時 8月19日(月) 19:00~20:10 会場 馬場小学校 対象 学校運営協議会 人数 20人	① スクールバスの運行基準では、4km以下だと徒歩になるのか。 [答] 水沢小学校と水沢第1では4km以内のため、基本的には徒歩になる。冬期は基準距離が2分の1になり、雪で歩道が歩けないなど道路状況が悪く、冬期のみスクールバスを運行しているところもある。基準は基準としてご理解いただき、道路状況を勘案した中で保護者の皆様とのご相談になる。 ② 冬期は、12月から3月までか。 [答] 降雪状況にもよると思うが、11月から翌年3月末である。 ③ 小学校1年生に4kmの道のりは抵抗がある。安養寺から水沢小学校に通っている1年生は、ほとんど親が送迎をしていた。未就学児の親が、通学を考えてこの地域には住めないと判断する傾向が高くなっている。拍車をかけて地域に若い方がいなくなることが、上越市では顕著であると言われている。分散からコンパクトに集約するという目標があるとしたら、それも含めて教育委員会がアドバイスしないと、移転できないで残された少数の1年生という状況を作らないでほしい。配慮できるならば、馬場小学校へ通っていた距離が、統合で倍になる地区もあるため、スクールバス運行についてはかなりシビアに考えていると思うので、相談ではなく基準をきちんと作って話し合いができるようにしてほしい。また、就学許可条件の検討というのは、複式ではない学校へ学区を越えて通うことができるのか。さらに大きく学区を越えて通うということまで考えているのか。 [答] 複式学級校から再編先への就学であり、例えば、貝野小学校が令和3年度に田沢小学校へ統合するから、

（水沢地区）	令和2年度の新1年生が1年早く田沢小学校に入学しても良いという意味である。学区外就学にはいくつかの基準があって、それに当てはまる場合は認めている。まつのやま学園については、特色ある教育として英語教育を行っていることや市内唯一の小中一貫校となっており、市内どの学区からでも保護者の責任で通学するのであれば認めている。いただいたご意見は、教育委員会で検討させていただく。 ④ 令和4年4月には複式解消とあるが、そこで統合すると決まった場合に、馬場小学校は令和3年度に150周年を迎え、記念行事を行うことになる。同じく令和3年度に閉校記念式典等を行うことになるのか。例えば統合を1年間繰り下げるなど柔軟な対応ができるものなのか。 [答]地域の同意が無ければ、学校の統合はできない。その同意を得られるのが何年度になるのかにより、地域の皆さんと学校でご相談いただければ良いと思う。目標は教育委員会が定めた方針であり、最終的には地域の皆さんがいつ決断するかということである。 ⑤ 倉俣小学校も周年事業と閉校記念式典が同じような時期であったと思うがどうであったか。 [答]倉俣小は、閉校する2年前に140周年事業を行っている。 ⑥ 必要により学校名を検討とあるが、馬場小と水沢小の統合には学校名の変更を考えているのか。 [答]同じような学校規模が統合する場合には、名称問題が大きいと思う。水沢小学校は規模が大きいので、教育委員会としては学校名が大きな問題になるとは考えておらず、仮に、地域の皆さんと水沢小学校区の皆さんが話し合いにより変えることになれば、変えても構わない。 統合の方向性が具体的になってきた場合に、学校毎の行事をどう調整するか、或いは教育の方針等を調整する必要が出てくる。その場合、学校運営協議会同士が協議することになると思う。その中に学校名がひとつのテーマになるかと思う。 Q&AのQ16に、「これまで培ってきた学校の特色を再編先の学校に引き継ぐことができるのか。」A「学校の再編は、単に2つの学校をひとつにまとめることにとどまらず、相互の学校の良いところを引き継ぎながら、新たな学校を作ることであると考えます。今までの統合校でも卒業証書を和紙作成から関わる活動を引き継いでいる学校もあります。」具体的には松代地域で、松代小学校に孟地小学校と奴奈川小学校が統合した際に、孟地小に伊沢和紙の文化があり卒業証書を和紙で作っていた。地域の皆さんが話し合いをした中で、統合先の松代小学校でも引き継ぐということで今も続いている。馬場小では、汎愛村校という石碑があるとおおり、その精神は大事にしていきたいと思う。 ⑦ 水沢小学校と馬場小学校の統合は、地域の皆様の声がなければ進まないという話だが、両校の合同検討委員会等が立ち上がっているのか。何かがなければ進まないと思う。 [答]今現在、統合委員会等はないけれども、未就学児の保護者を含む保護者の皆さんに説明させていただき、統合を進めてほしいとなれば、教育委員会は積極的に学校運営協議会等の話し合いの場を用意して、協議を進めたい。もうひとつは、学校後援会とPTA組織そのものも話し合いが必要だと思う。教育委員会が間に入って、統合がスムーズに進むように努力したい。
---------------	---

(水 沢 地 区)			
	日時	8月20日(火) 19:00~20:15	① 学区適正化の方針とは、子どもたちの教育環境のためということだが、国が進めている方針なのか。 [答]子どもたちが急激に減少する中で、学ぶ環境として相応しいのかということである。国が適正規模と言うものが、小学校、中学校とも全校で12学級から18学級で、小学校であれば1学年2から3学級、中学校であれば4から6学級という規模が、学ぶ環境としては適正ということである。十日町市では学校が非常に小規模になってきており、方針の9ページに資料がある。十日町市の小学校1校あたりの平均児童数は135人で、県内20市の平均では239人である。小規模化が進む中で、子どもたちの学ぶ環境をより良くしたいという思いから方針を定めた。小さな学校が一概に悪いということではなく、当然メリットもデメリットもあるが、より良い教育環境に一步でも近づくよう、できれば統合を検討していただきたい。 ② 他市で進めているのが、統合ということになるのか。 [答]県内でも毎年各市で統合を進めている。今年度通知があったのは、南魚沼市や阿賀町、村上市では多くの学校の統合を進めているようである。全国的にも少子化であり、課題になってはいるが、地域にとっては寂しい思いもあり、なかなか統合ができないという実態がある。十日町市教育委員会も皆さんのご理解をいただいた中で統合を進めたいという説明会の主旨である。 ③ 9ページで、佐渡市の生徒数に対する教員の比率が多いと思うが、何か対策を行っているのか。 [答]佐渡市は、1校当たりの児童数が108人ということである。中学校でも複式学級がある。佐渡の形状から半島の部分に学校があるため、統合しようにも通学の手段に時間が掛かりすぎるなどの問題がある。小さな島では、船で渡って大きな町の学校に通うことができず、離島などでは生徒ひとりに4~5人の先生という学校もある。 ④ 24ページで、中学校では十日町地域と川を挟んで川西側の学校が統合するが、統合する組み合わせ方に理由があるのか。 [答]子どもたちが少なくなり、勉強も大事であるが部活動も子どもたちの成長には大切なものと思う。12ページに部活動の状況がある。小規模になるほど団体競技ができなくなる。県内でもサッカーは人気があるスポーツだが、十日町市ではできない。バレーボールや野球または個人種目になってしまう。子どもたちが伸び伸びと好きな部活動が、できるような環境を整えられれば良いと思う。区分けについては、一番北の方に川西中と下条中を中条中に統合するということである。結局ある程度の規模の学校を作るには、こういうまとまりを考えた。また、松代中と吉田中を南中に統合するという考え方についても、地域的な連坦として253号線沿いに学校があるということで提案させてもらった。川の西側に中学校ができないかという検討もあり、松代中、吉田中、川西中で川西中が一番大きい、川西中に統合できないかという考え方もあった。できればバス路線があると良いとの考えで、松代から川西へ直通のバス路線がないことや、川西中の改築に
	会場	馬場小学校	
	対象	保護者 (3~5才児含む)	
	人数	35人	

- より教室数に余裕のある改築を国は認めていないことから、1学年2学級の教室数しかできなかった。その校舎で、松代中と吉田中と一緒にには入りきらないという事情もあった。総合的に勘案してまとめた。
- ⑤ 小規模の学校の方が勉強面は良いと思う。自分も 2.3 kmを歩いて通っていたが、できる限り今の状況が残ればありがたい。
- [答]勉強面については、大きな学校と小規模な学校とで差があるとは思っていない。ただ学ぶ環境として、学校運営としては課題があり、教員の状況として大きな学校ではある程度支えあえるけれども、小さな学校は教育効果を上げるために苦労が大きいと思う。
- ⑥ 教員数が少ないことに対し、補助につく教員を配置することはできないか。
- [答]教員の給与は、国が支援した中で新潟県から支払われている。特別支援に関わる教員は少しずつ枠が広がっているが、普通学級の教員は十分な手当ができていないが、加配という制度があり困難な状況があるときは教員を追加配置することがある。新潟県自体が財政的に大きな課題があるということで、県教育委員会は予算獲得に骨を折り、そういう状況で人材を確保するのが難しい。市単独では、教育支援員 51 人を任用する予算を確保したが、応募が充分でなく 6、7 人の欠員がでている。そういうことで学校にしわ寄せがいき、人員を配置できない状況がある。
- ⑦ 保護者がすべきことは、目標である令和 4 年度に向けて統合について話し合い、未就学児の保護者を含めて意見をまとめて、次の段階で地域の方々の意見を取り込んで、例えばアンケートなどによる決め方を含め、最終的に決めることになるのか。
- [答]貝野小学校は、田沢小学校と統合する意思を今年の春に固めたが、アンケートという形をとり、それを基に地域の皆さんに説明をされたということである。
- ⑧ 反対意見が多ければこのまま統合の話はなくなるのか。また、何年かして児童数が少なくなってきたときに、もう一度考えを確認するということになるのか。
- [答]反対が多ければそういうことになる。貝野小学校についても何年越しの話し合いになった。
- ⑨ この方針をみると、数字上の数合わせの内容とを感じる。子どものことをどこまで考えているのか読めない。自分では、複式学級となってきた学校統合はやむを得ないという気持ちでいるが、水沢小学校と一緒にすることを子どもに聞いたら「嫌だ」と答えた。どうしてか聞いたら、歴史があるし落ち着くとか気が楽だという話をした。子どもたち自身が、いきなり水沢小学校に行くことになると混乱すると思うし、知らないところに行かされるような感じになる。水沢小学校に行ったときに、馬場小学校のリコーダーなどの特色が失われないような形を教育委員会が間に入り進めてほしい。水沢小学校は近くにあるが、実際にどういう特色があり、どんなことを行っているかを馬場小学校の保護者は良く知らない。子どもはもっと不安になると思うので、相互の交流を増やした中で話を進めていくことが必要だと思う。
- [答]そのようなお考えや不安を持つのは当然と思う。昨日も学校運営協議会の皆さんに、馬場小学校では汎愛という石碑があり、統合にあたってもその汎愛という精神を大事にしてほしいと話をした。また、松代小学校に孟地小学校と奴奈川小学校が統合した際に、孟地小に伊沢和紙の文化があり自分で作った和紙に文字

（水沢地区）	を入れ卒業証書を和紙で作っていた。良い伝統は引き継いで欲しいと思っていたが、地域の皆さんは配慮して現在も松代小学校は和紙を使った卒業証書を作っている。当校のリコーダーも伝統あるものなので引き継いでほしい。統合にあたっての学校間の話し合い、また学校運営協議会や保護者との話し合いの中で、その話を出して協議の場にもって行ってほしいという思いがある。 ⑩ リコーダーを集中してできる環境を学校が作ってくれて、子どもたちが頑張ってくれたと思う。子どもは環境を変えても適応すると思う。適正化の方針を見ると、データの数字は載っているが、子どもたちの意見が載っていない。子どものことを考えるのであれば、今の子どもたちが何を求めているかをアンケートするなどで把握し、この方針に載せると我々も納得しやすい。 [答]リコーダーについては、市内では東小学校という規模の大きな学校も文化を持っている。小さな学校は4年生以上全員で出場したり、大きな学校は5年生以上で大編制の部に出場したりなど、色々な取り組み方があると思う。その時々学校の状況に応じて学校の文化を創れば良いと思う。教育委員会がやりなさいではなく、学校と地域が話し合って、地域の支援をいただきながら学校文化を創っていくことが大事だと思っている。 ⑪ 統合後に統合した学校の児童から、統合したことについてアンケートを取ったことはないか。 [答]倉俣小学校の子どもたちについては、特に苦情のようなものは聞いていない。友達が多くなって良かったと言う話は聞いたことがある。 ⑫ 学校には、PTAや後援会、学校運営協議会などがあるが、どこを窓口はこの話を進めるのか。 [答]基本的には未就学児の保護者を含め、保護者の皆さんの気持ちが中核になると思う。話し合いの輪を広げ、地域の皆さんを交えたりしながら考えを固め、並行して水沢小学校の学校運営協議会やPTAや後援会とどう摺り合わせをするか。教育委員会としては話し合いの仲介などの支援をさせていただく。 ⑬ どこが統率して進めていくのか。地区でも決めなくてはならないが、初めはどこに話をするのか。 [答]色々な進め方があると思うが、中核は保護者の皆さんの気持ちだと思う。 ⑭ 保護者の皆さんが、情報をしっかり集めきちんと判断することを続けてほしい。令和3年度に150周年記念事業を行うことになる。再編計画では令和4年4月に統合するという目標であるが、そういうスケジュールも念頭に検討をお願いしたい。 ⑮ 話し合いの結果が、統合は令和5年、6年になっても問題はないのか。 [答]皆さんの意思であり、それについては問題ない。
---------------	---

【川西地域】

	日時、会場等		主な意見等
上 野 地 区	日時	8月7日（水） 19：00～20：50	① なぜこの再編計画になったのか。川を跨いで統合するのはなぜか。 [答]中学校の再編は川を跨ぐことになるが、1学年2クラスという教育環境を基本に組み合わせを検討した。検討の中では川西中学校に松代中学校と吉田中学校の統合を検討したが、バス路線などの利用も検討するなかで、松代中、吉田中については南中学校に統合するとしたのは、国道253で繋がり連坦する地域であるとの考えである。川を跨ぐことについては、上野の交差点から中条中学校まで車で12分程度であり、大きな支障があるわけではない。 ② 子どもが学校に行っている時に、大地震があり橋が壊れた場合はどうするのか。 [答]大災害が起きた場合に橋を渡る、トンネルを通る、雪の時期には雪崩がおきるなど、どういう状況になるか自信を持った回答はできないが、子どもたちが学校にいる限りは、すぐに帰宅できなくても学校内での安全対策をしっかりと対応したい。 ③ 橋が老朽化しているため、大きな地震のときに大丈夫とは言えない。なるべくリスクを減らした方が良いと思う。 [答]貴重なご意見としてありがたく承る。 ④ 7月29日の川西地域振興会で説明しているが、その際に質問に対しどんな答弁をしたのか。 [答]川西地域振興会の理事会で説明させていただき、幾つか質問があった。（7月29日の主な意見等と重複するため記載省略） ⑤ 方針の中に1学年1学級とあるが、この1学級の人数は何人が教えてほしい。また、児童生徒数が今後減っていく予測だが、1学年1学級を確保できる人数に増えた場合は、学校を存続することができるのか。子どもたちが、このまま学校が無くなるという寂しさの中で学校生活を送ってしまうのではないか。何かの要因により児童生徒数が増え、1学級の人数を確保できれば学校が存続するということを併記できないか。 [答]第2次方針はこれで決定であるが、市は移住定住の施策を取り組んでおり、地域おこし協力隊の皆さんが7割くらいは定住している。施策が功を奏して子どもの数が増えてくるようならありがたい。1学級の人数については、「引き続く2の学年の児童数の合計が16人以下の場合は、1学級とする。ただし、第1学年の児童を含む学級にあっては、8人以下の場合、1学級とする。」という基準である。1学年9人以上であれば良いことになる。 ⑥ 方針を決定したから、これから学校存続の署名をしても変わらないということなのか。
	会場	上野小学校 食堂	
	対象	・学校運営協議会 ・保護者 （3～5才児含む）	
	人数	25人	

(上野地区)		[答]現在、松代中学校区と橘小学校区から反対署名と学校存続の要望をいただいている。何れも当方が説明させていただく前に署名をされているので、これから地域の皆様に当方の説明をご理解いただけるよう、教育委員会として努力したい。地域にご心配があることは、しっかりと受け止めている。 20 ページの小学校の再編スケジュールにあるように、教育委員会が地域や保護者等の方針説明を行い、保護者の同意があり、要望がなければその先に進まないということである。要望があっても地域自治組織へ公の施設に関する協議を行い、了解がなければ学校設置条例の改正には進まない。統合に進まないということである。教育委員会が方針を決定したが、地域の皆様、保護者の皆様のご了解なしには進めないという計画である。 ⑦ 上野小学校と橘小学校の児童数の減少だけでなく、千手小学校も同様に推移すると思う。方針を検討する中で、千手小学校を含めた川西地域で1校という再編の考え方があったか。 [答]橘小と上野小の統合は、第1次の学区適正化方針にも計画され、この度の第2次方針にも引き続き検討され計画された。千手小学校は、複式学級が始まる見込みは当面無い。 ⑧ 生徒数を確保して、学級数を確保してクラス替えが可能になるということだが、中学校の統合に理解を示す方は少ないと思う。コミュニティ・スクールができて、学校運営協議会が始まったばかりであり、教育について振り返りの議論ができていない状態の中で、統合の理解が進まないのではないか。信濃川西岸で吉田と川西の面積で比較して、20市ではどのような位置付けになるのか。 [答]1校あたりの児童数は、方針の9・10ページに載っている。面積あたりでは、津南町も湯沢町も中学校は統合で1校になっている。近隣の自治体では統合を進めてきた状況がある。川の西岸地域に中学校を残したいという考えは、吉田地域の皆さんも言っている。これからも各地域で説明会を行う中で、皆様からの意見が教育委員会の考え方と整合するような良い考えがあれば、積極的に対応したいと思う。 ⑨ 地元の教員が少ないというが、それについて対策を執っているのか。例えば、この地域の子どもが教員になって帰ってきたら、こんな良いことがあるというようなものがあるのか。 [答]10年前頃から、異動の範囲を合併前の魚沼地域2市3郡とする「魚沼枠」という教員の採用方法が始まったが、採点基準は県内一律であるため、「魚沼枠」採用の採点基準が甘くなることは無いとのことである。大学で教職課程を卒業しても、一般企業に就職する人もいる。教職員の多忙化や生徒指導の難しさなどがあり、できるだけ教職員に寄り添った体制の組替えなどで多忙化の解消を進め、勤めやすい環境づくりをしなければならないと思う。 ⑩ 子どもが卒業してからも上野小学校の教員との交流があり、来られた先生は皆「上野小学校で良かった。こんなすばらしい学校はありません。」と言ってくれる。地域の行事や祭りにも参加して、一生懸命してもらった。この地域が良い地域であるともっと広く知ってもらい、優秀な先生を呼び込んでもらうようなアピールをしてほしい。統合に関係なく優秀な先生を引っ張ってくることは大事なことである。重点的に予算をつけてほしい。 [答]良い先生に来てほしいのは同感である。上野地域に限らず十日町地域は心が暖かい、フレンドリーだと
---------------	--	--

（上野地区）	いう話を聞いている。そういう気持ちで先生方に接していただけると大変あり難い。 ⑪ 仙田から通っているが、スクールバスは回ってくるので倍の時間がかかる。中条中に統合となると、最長でどれくらいの通学時間になるのか明示して検討を進めてほしい。川の西岸に中学校が無くなると、人口流出は絶対にある。仙田は小学校が無くなってから、結婚、子どもの就学、家の建替え、のタイミングで出て行くという現実を受け止め、学校統合により人口がどう変動するかをイメージしないと、統合してもまた複式になることが起こると思う。それを考えて進めているのか心配である。 [答]通学には、徒歩で小学生4km、中学生6kmであり、交通手段を使うと1時間未満という基準がある。 ⑫ 不便になるということは、住み続けることにつながらないと思うので、中心部に人口が移っていく。仙田はいずれ人口無しになるだろう。そういったことも明示した上で進めてほしい。 [答]検討委員会の中では、子どもたちのことを第一に考えたが、地域振興に関連することは良く分かる。教育委員会に限らず市全体の中で、それぞれ地域振興策を取り組んでいかなければならないと思う。 ⑬ 令和10年度には川西中が107人で中条中と下条中より生徒数が多い。その中で中条中を中心とした統合となったのはなぜか。 [答]一番の理由は、中条中の学校規模が大きいということである。川西中は1学年2クラスが上限であるが、中条中は普通教室が9クラスということでキャパシティが大きい。 ⑭ 通学距離について、冬期のこともあり保護者は気になることである。 [答]スクールバスについては、大きなバスだけでなく、11人乗りのバスや乗用車を使用するなど、子どもの人数によって適宜使い分けを行っている。時間が掛からない最短の通学方法を検討しながら対応したい。 ⑮ 今後の説明会について、地域住民が学校を支えてきたところがあるが、地域住民への説明はどうするのか考えを教えてほしい。 [答]学校運営協議会や保護者を優先で日程確保を行い、その後に地域住民への説明と考えている。川西地域にもしっかりとご説明申し上げ、ご意見、ご要望、ご心配の声もしっかり受け止めさせていただく考えである。説明会にたまたま来れない方もおられるので、11月半ばに段十ろうの大きな会場で、どなたでも説明を聞いて質問ができるという会を設けたい。 ⑯ 他の地域では、11月までに説明会をするということになるのか。 [答]それは、地域自治組織の皆さんと相談して決めていくことになる。それも1回に限らず、1年間かけて説明するくらいの気持ちで、このような会を繰り返して意見を伺いたいと思う。 ⑰ 再編スケジュールで、地域自治組織からの回答とは、同意回答ということか。 [答]そのとおりで、同意回答があった場合に再編を進めていく、同意がなければ進めないということである。 ⑱ この方針は簡単には変更できないのか。変更する場合は、学区適正化検討委員会で決めるのか。 [答]方針は、学区適正化検討委員会から答申をいただき、教育委員会の責任で方針を決めた。教育の現場に大きな状況の変化があれば、教育委員会としてこの方針をどうするか考えなければならない。 ⑲ 方針の推計より最新の児童生徒数の推計を基に、教育委員会は何か考えがあるか。
---	--

(上野地区)		[答]上野小学校は、方針の中では複式が無かったけれども、最新では令和3年度から複式になる推計がでたということである。転入などがあれば、それも変わってくるかも知れない。 ②⑩ この方針は、保護者や子どもたちを中心に考えているが、学校は地域存続に関わる生命線でもある。地域も必死になって考えていると思う。頭で解っても感情的に同意できない場合があると思う。感情論では、しこりが残るので、そういうことの無いように地域と十分に話し合い、保護者の意見を聞きながら、ほとんどの地域に行った中で進めるよう願う。 [答]そのように心がけたいと思う。 ②⑪ 再編スケジュールに、保護者の同意、要望等を集約とあるが、進め方について具体的に教えてほしい。 [答]今までの例では、保護者の中でアンケートを行い意見集約したことがある。話し合いの中で確認できればそれでも良いと思う。方法については、色々あると思うのでご検討いただきたいと思います。 保護者の皆さんとこの方針をたたき台として意見交換を数回させていただき、方向性をまとめることができれば、アンケートなどの方法で集約できると思う。その意見も過半数なのかどれくらいの割合にするのかを決めていただき、次の段階として進めて行くことになる。 ②⑫ 保護者が主体となって意見集約のアンケートなどを行うのか。教育委員会がアンケートを作って主体となっていくのかどちらになるのか。 [答]保護者の皆様のやり易いように協力させていただくつもりである。保護者会の進行は、保護者会ですすめていただき、会議の同席や資料の作成などはお手伝いさせていただく。

【中里地域】

	日時、会場等		主な意見等
貝野小学校区	日時	8月5日(月) 19:00~20:00	① 水沢中学校と中里中学校を建築年の新しい水沢中学校に再編するということだが、新しい校舎を建設するのか、今の校舎を利用するのか。
	会場	貝野小学校	[答] 水沢中学校の方が若干新しいことと給食の配送設備が整備されていることがある。統合したがまたすぐに統合とならない方が良いという考えから、令和13年に市全体として888人の中学校生徒の予測がある。津南中等教育学校に進む子どもについては考えていないわけで、例年30人から40人が津南中等教育学校に進学することを考えると、市全体で850人程度になると思う。
	対象	保護者 (3~5才児含む)	
	人数	20人	教育委員会としては、離れた学校に通うにはスクールバスを運行する。子どもたちを運ぶ人数は少ない方が良いとなる。それと共に、市町村合併した平成17年に水沢中学校の生徒が167人、令和13年度は89人の見込みである。中里中学校については、平成17年に219人で令和13年度には87人の見込みである。こうしてみると、中里中学校の方が生徒の減少率が高いということが想定されることから、水沢中学校に再編してはどうかということである。水沢中学校についてはひとつ課題があり、校地に借地があり借地料を支払っている。学区適正化検討委員会では、お金のことではなく、子どもたちの学ぶ環境を最優先に考えてほし

（貝野小学校区）		いということで議論した結果、水沢中学校ということで現在地の校舎を利用する。 ② 学区の再編が確定した場合の新入学児童に対する田沢小学校への学区外就学許可条件は決まっているのか。それとも統合が正式決定してから検討することになるのか。 [答] これには先例があり、倉俣小学校が田沢小学校に統合するにあたり、統合の1年前の新入生が3人であった。学区外就学の許可条件としては、転居したけれども年度末まで続けて通いたいなど、決められたいくつかの条件により田沢小学校に通いたいという方がいらした。また、統合が決まっているので、1年前倒しで統合先の田沢小学校に入学したいという希望された方もあり、田沢小学校に通われた。3人のうち1人は通常の条件によるもの、1人は統合先への1年前倒しによるもの、もう1人はご兄弟が倉俣小学校に在学していたのでそのまま入学された。令和2年の4月に新1年生になる児童の保護者の方は、申請していただいて、1年前倒しで許可したという倉俣小学校の先例にならって対応したい。 ③ 申請をすれば許可される可能性が高いということか。 [答] そのように対応したいと思う。来年度新入学の子どもが、1年間貝野小で過ごして、統合で新しい環境に入るといよりも、入学時から新しい環境の中でということは、親として当然考えることだと思うので、配慮しなければならないと考えている。 ④ 今日来れなかった保護者に内容がわかるように、この説明会で挙げた質問と答弁の内容を後日配布してもらえるのか。 [答] 記録を残しているので、まとまったらPTA会長さんに確認していただいたうえで、皆さんに配布したいと思う。少し時間をいただくかも知れない。
----------	--	--